令和２年度　調布多摩川幼稚園の

新型コロナウイルス感染予防の考え方

園長　増田　昭一

５月２５日に緊急事態宣言が解除され６月２日から調布多摩川幼稚園も再開しました。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束したわけではありません。

引き続き注意と警戒をする必要があります。

日本も世界も大きな傷を負ったわけですが、今なお続くこの渦中にあって、返って「大切なことに気づくことができた」という話も聞くようになりました。

緊急事態宣言が解除されても「以前と同じ生活には戻れない」「新しい生活様式」の実践例が示されました。人と人がマスクで遮られ、どこでも物理的な距離をとる生活が続くのだと思います。

ところで、それを保育に当てはめて考えると、変える必要のあるものと、どんなに時代が変わっても、保育で変えてはならないものを、しっかりと見極めていくことも大事です。その一つが**「子ども同士の関わりの中で育つものをなくさない」**ということです。

子ども同士の関わりで象徴的な言葉があります。**それは「アタッチメント」です。**日本語では愛着と訳されますが、**本来は「くっつく」という意味**です。**子どもと子どもがくっつくこと。群れること。肌と肌が触れ合うこと。抱っこすること。先生の膝の上で安心を取り戻すこと。こうした「くっつくこと」ができなくなったら、もはや保育ではありません。**

新しい生活様式になっても、子どもが育つために必要な条件まで、変えてしまってはいけません。大人と大人がマスクによって、仮に隔てられた感じがしたとしても、こころが通じ合うことまでなくしてはいけません。そこを決して見失わないようにしたいと思います。

５月２０日に日本小児科学会　予防接種・感染症対策委員会が「小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見の現状」を発表しました。子どもの場合、子どもから子どもへの感染は少ない。ほとんどが家族感染である。私も含め大人たちの感染予防が重要になります。私たち幼稚園関係者にとっては、再開前に正しいリスクを知っておくために参考にした内容でした。

基本的な感染予防対策は、「感染源を断つこと」「感染経路を断つこと」「免疫力を高めること」を根底に考えています。幼稚園は、「調布多摩川幼稚園の新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて」のマニュアルに従って感染予防を行っております。子ども達が安全に園内で生活を送るためには、園内への大人の出入りを制限することも必要です。また、密閉・密集・密接の「３密」を避けること、人と人（大人）の距離を開けることも必要です。